

ことつら議会だより

2021年2月1日発行 第67号



トピックス

- ・ 定例会・臨時会…………… P2
12月定例会・10月、11月臨時会
- ・ 委員会の報告…………… P6
議会改革推進特別委員会ほか
- ・ 特集…………… P8
議員定数・報酬現状のまま
- ・ 一般質問…………… P11
ここが聞きたい 2日間で13名が質問

雪だ～！
大人も一緒にそり遊び
冒険遊び場「プレーパークどんぐり」



コロナ禍議会は続く・・・ 12月

12月定例会

12月10日～22日

本年度一般会計補正予算案（第10号）など12議案を原案どおり可決。追加議案として、ひとり親世帯臨時特別交付金などの補正予算案（第11号）も可決。また、議会の定数と議員報酬について、議会改革推進特別委員会は、町民アンケート結果や他町の定数の状況などから現状維持と最終報告した。さらに、公共施設整備に使用する天然芝の「地産地消」についての請願は採択となった。

2年請願第5号 公共施設整備に使用する天然芝の「地産地消」について

採決の結果、議会全員一致で「採択」

本議会冒頭、諸般の報告に続き提出された「2年請願第5号」に対する総務産業常任委員長審議報告があり、「趣旨採択とするのが適当」との報告があった。が、この報告をめぐる、多くの議論が交わされ、「採択」すべきとの意見が多数あったため、会議に諮られ再度委員会に付託された。

休憩の間、再度委員会が開催され、再開後の2度目の委員長報告では一転「採択とすべき」との報告となった。採決の結果は、議会全員一致で「採択」となった。

「趣旨採択」に賛成

前田敬議員

鳥取県芝発祥の地であること。外国製のティフトンは使用不可ということが大前提。芝の種類もいろいろあり、天然芝と人工芝は一長一短ある。公共施設の利用は最善の方法を。

桑本賢議員

琴浦は芝発祥の地だから芝を大切にしたい。しかし、請願が出た経緯に若干異論がある。この度は県芝の支部から出された。これまでのいきさつからして、「趣旨採択」するのが無難だ。

押本議員

夜間照明や人工芝等で活性化をというのが公共施設レビューの意見、また、議員提出議案第17号で「人工芝で改修すべき」という議会全員一致の決議を行った。

本来、「趣旨採択」は「気持ちはわかるけど今はダメだよ」というもので、今後議会がとるべき姿ではない。

委員長報告に対する討論

芝に関する4件目の請願
そもそも請願に「趣旨採択」とは

「趣旨採択」に反対

井木議員

芝発祥の地、東伯の生産者からの悲痛な請願だ。この請願を無視するような形で趣旨採択ということはダメだ。趣旨採択には反対。

大平議員

圃場への繁殖力が旺盛な西洋芝の混入に対する懸念の声が今回の請願につながっている。芝の産地・生産者のことを第一に考えれば原案で通すほかない案件。

福本議員

鳥取県芝発祥の地と言われるまでには生産者は並々ならぬ努力をしている。

日本芝はサッカー場には不向きだが生育旺盛なティフトンの導入は日本芝を脅かす。だから人工芝の提案もでた。公共施設で日本芝をとという生産者の熱意を受け止め、曖昧な「趣旨採択」でなく賛成すべき。

高塚議員

採択すべき。内容は、一つは公共施設整備に町内産の芝を、2つ目は混入の原因となるティフトン系の洋芝は使わない。3つ目はボランティアにより維持管理費の軽減をとしている。議会が採択せずに議会の役目を果たせない。前회가「趣旨採択」だから、それを覆すわけにはいかないなどというのは言語道断。

定例会 対策は知恵とスピード感

議案第150号 本年度補正予算第10号の主な事業

- ・企業版ふるさと納税地方創生基金積立金（231万円）
令和2年7月に町の地域再生計画が内閣府から認定されたことに伴い、企業版ふるさと納税を受け入れて地方創生事業へ活用するもの。
- ・コロナ後の観光振興事業（167万円）
環境省では、国立公園内のワーケーションを推進している。コロナ禍で注目が高まる現状を踏まえ、一向平キャンプ場でワーケーションを受け入れる環境整備（Wi-Fi等）を行うもの。
- ・国道9号線街路灯撤去工事（432万円）
八橋地区内における国道9号線道路拡幅工事に伴い、占用している商工街路灯の撤去を行うもの。
- ・戦略的園芸品目（イチゴ「とっておき」）総合対策事業補助金（305万円）
県育成のオリジナルイチゴ新品種「とっておき」の普及・振興を図るもの。
- ・ポート赤碕ふれあい広場遊具リニューアル実施設計委託料（1000万円）
コロナ禍における外出自粛により親子のストレスが懸念される中、地域密着型の公園とすることで子育て支援を行う。また、ゲートウェイ機能を有する「琴の浦IC」から、観光客の周遊、地域特産品の売り上げの向上、交流人口・関係人口の増加を図るもの。
- ・障がい児施設通所給付費（327万円）
障がい児の放課後等デイサービス事業所増加、利用者の増加に対応するもの。
- ・新型コロナウイルスワクチン接種事業（417万円）
新型コロナウイルス感染症を予防するために行う予防接種について、供給が可能になった場合、速やかに町民に対し接種を行うことができるよう準備を進めるもの。
- ・埋蔵文化財発掘調査受託事業（491万円）
県道船上山赤碕線（出上工区）改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査について、県から受託を受けて行うもの。
- ・図書館システム業務委託における債務負担行為限度額（3960万円）
図書館システムが令和3年12月にリース期間が満了する。このため、今年度導入するICタグシステムとの連携や新システムへの移行期間等を勘案し、令和3年度からの図書館システム等更新業務について債務負担行為を追加するもの（令和3年度から同7年度まで）。



討論

賛成
9

欠席1 退席1

反対
3

反対

高塚議員 遊具設計費は急ぐ必要はない。吟味が必要。

井木議員 遊具の具体的な内容がわからないので、賛成しかねる。

賛成

押本議員 町財政にとって痛い話ではない。総括質疑をいかして執行を。

議案第158号 本年度補正予算第11号の主な事業

- ・ひとり親世帯臨時交付金支給事業【国制度】（1205万円）
新型コロナウイルス感染症の影響により生活に大きな困難が生じているひとり親世帯に対し、子育ての負担や収入の減少に対する支援を行うため、臨時特別給付金を再度、支給するもの。
- ・コミュニティ助成事業（100万円）
令和2年度コミュニティ助成事業追加募集分について、採択決定となったため、事業実施にかかる経費を計上するもの（別宮部落・除雪機）。



整備予定品
ハイブリッド除雪機HSM1590i

本年度一般会計補正予算と財産の取得の2議案を原案どおり可決。主な補正は、PCR検査委託料やインフルエンザ予防接種助成費、こども園給食調理等業務委託事業など。次回町議選の議員定数や報酬について検討する「議会改革推進特別委員会」を設置。

議案第137号 本年度一般会計補正予算（第8号）の主な事業

- ・インフルエンザ予防接種助成拡充事業（967万円）
新型コロナウイルスと季節性インフルエンザは、症状だけでは判別が困難である。予防接種の助成対象を拡充し、インフルエンザ予防接種を支援する経費を追加する。また、妊婦への接種費用を無償化する経費を追加するもの。
- ・PCR任意検査事業（100万円）
基礎疾患を有する者は、新型コロナウイルス感染症に感染した場合に重症化するリスクが高い傾向がある。行政検査の対象にならなかった基礎疾患を有する町民を対象に検査を行うことで、本人の不安を取り除く。
- ・こども園給食調理等業務における債務負担行為限度額（1億5724万円）
自園調理により安心・安全な給食を安定して提供するため、令和3年度からの給食調理業務等の業務委託（2園）について債務負担行為を追加するもの（令和3年度から令和7年度まで）。

一般会計補正予算（第8号）に対する修正動議（こども園給食等業務を除き予備費とするもの）が、高塚勝議員と大平高志議員から出された。提案理由は、職員募集にあたり取り組みに問題ありとするもの。

原案賛成

桑本賢議員 まず、現業業務を公務員がする必要があるのかと思っている。正規職員の退職のタイミングをみて民営に出そうとする判断は、やむを得ない。機構改革は必要。

押本議員 労働環境の良い状態で調理師を募集する道筋はやってきたはず。町全体の園児の数が減っていく、現実的な対応で今回の調理業務委託の話が出たと考える。

修正案賛成

大平議員 調理師の募集方法、組合との協議が整わない、議会への報告もない、ましてや保護者へはこれからだという。何かしら結論ありきだ。

福本議員 調理師は単なる調理ではなく、保育士とともに食育にもかかわり責任ある大変な業務だ。応募条件は外部委託前提で物事が進んでいるからだ。



欠席 1

議案第138号 財産の取得について（琴浦町公衆用Wi-Fi拡張整備業務1958万円）

各地区公民館等の出先機関にWi-Fi設備を拡充するにあたって、財産の取得について議会の議決を得るもの。

国の人事院勧告に基づく町職員や特別職の期末手当を引き下げる条例改正案、本年度一般会計補正予算案（第9号）、議員発議の2議案など10議案を原案通り可決。主な補正は、医療機関・介護施設職員などPCR任意検査事業、こども園、小中学校感染症予防事業など。

議案第139～141号 人事院勧告に伴う期末手当の引き下げ（△441万円）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により企業活動に大きな影響が生じていることを踏まえ、人事院勧告に従い、ボーナスにおいて民間支給割合との均衡を図るもの。

議案第142号 本年度一般会計補正予算（第9号）の主な事業

- ・こども園感染症予防事業（190万円）、および小・中学校感染症予防事業（636万円）
新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行等に対する感染症予防対策（加湿器等）を行うもの。
- ・医療機関・介護施設職員等PCR任意検査事業（3000万円）
クラスターの発生防止や職員が安心して従事でき、町民が安心して医療・介護施設等の利用ができる環境づくり。

◎議員提出議案第10号 議員報酬の期末手当に関し、特別職の公務員の改定に準じて改正。（0.05月引き下げ）

◎議員提出議案第11号 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方税財源の確保を求める意見書提出。

請願・陳情

番号	件名	提出者	要旨	付託委員会	委員会の意見	本会議採択結果
2年 請願 第5号	公共施設整備に使用する天然芝の「地産地消」について	鳥取県芝生産組合 八橋支部 支部長 内山 雄紀	公共施設整備に天然芝を使用する場合、ティフトン系洋芝ではなく琴浦町産の日本芝を使用し、ボランティア活用により維持管理費を軽減することを町に求める。	総務産業	採択	採択
2年 陳情 第8号	全国知事会の提言に基づき、新型コロナウイルス禍における日米地位協定の抜本的改定に取り組むよう国及び関係機関への意見書提出についての陳情	沖縄と連帯する とっとりの会 共同代表 石田 正義 一盛 真 伊藤 英司	全国知事会の提言に基づき、新型コロナウイルス禍における日米地位協定の抜本的改定に取り組むよう、国及び関係機関への意見書提出を求める。	総務産業	採択	採択 (国に意見書提出)

賛否が分かれた議案等の起立採決による審議の結果

	審議結果	議員																	
		賛成	反対	前田 敬孝	角勝 計介	福本 まり子	押本 昌幸	大平 高志	澤田 豊秋	桑本 賢治	新藤 登子	高塚 勝	手嶋 正巳	青亀 壽宏	前田 智章	桑本 始	井木 裕	小椋 正和	
臨時会	令和2年度琴浦町一般会計補正予算(第8号)	可決	9	4	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	欠	○	○	×	議
定例会	令和2年度琴浦町一般会計補正予算(第10号)	可決	9	3	○	○	○	○	退	○	○	○	×	×	欠	○	○	×	議

この表に掲載していない議案は全会一致で可決、陳情は全会一致で採択となりました。
○=賛成 ×=反対 欠=欠席 退=退席 議=議長

委員会

= 総務産業常任委員会 =

委員長 澤田 豊秋

12月18日に委員会を開催し、各課からの報告事項等の説明を受け質疑を行った。雪のため、現地確認はできなかったが、耕作放棄地対策でもある牧草飼育牛肉（グラスフェッドビーフ）を試食後、馬野畜産研究所の馬野善明氏（三本杉）から飼育管理状況について説明を受けた。また、ワイナリー構想の進捗状況についても担当課から説明を受けた。

次に、付託を受けた請願・陳情の審査を行い、『公共施設整備に使用する天然芝の「地産地消」について』の請願は趣旨採択。「全国知事会の提言に基づき、新型コロナウイルス禍における日米地位協定の抜本的改定に取り組むよう国及び関係機関への意見書提出について」の陳情については採択とした。

— 質疑応答 —

- Q** 道の駅「琴の浦」について、指定管理するためにテナント関係者と協議中と聞かすが、入られる方が十分納得するよう進めて欲しいが。
- A** 大筋で関係者の合意を得ており、丁寧に説明し、納得していただけるよう進めていく。
- Q** 184ある公共施設のうち、139施設について改修等を計画策定中ということだが。
- A** 3月議会に計画案を示したい。
- Q** 耕作放棄地が一気に増えている。
- A** 貸して情報をいただいて借り手に斡旋している。悪い条件のところはどうしても残る。



道の駅「琴の浦」



= 議会改革推進特別委員会 =

委員長 前田 智章

10月20日に「議会改革推進特別委員会」を設置、全議員を会の構成員として委員長・副委員長を決め、今年度については①議員定数と②議員報酬に絞り、2回にわたって議論を重ねたうえ、委員会として一定の方向性を出した。

【議員定数について】

定数削減の経緯は、平成16年合併時30人から3度の改選を経て14人削減し、現在の16人となっている。

昨年度に実施した町民アンケートの結果は、「適当」41.9%「やや多い」31.4%「多い」25.3%であった。「多い」と回答された方の中には、本町の議員定数を知らない、また、議会に関心がない方の割合が多くあった点は注目すべきである。

本委員会は、町民アンケート・アンケート分析結果・県内各自治体の状況・総

議会に対する
町民アンケート

令和元年11月5日～
12月2日実施



アンケート結果
分析依頼
(鳥取大学へ)

令和2年10月



アンケート分析
結果報告会

令和2年10月21日

の 報 告



= 教育民生常任委員会 =

委員長 大平 高志

11月6日に委員会で、成美地区公民館トイレの故障状況を確認のため、現地調査を実施。

12月17日に委員会を開催し、所管各課から議案関連と報告事項の説明を受け、活発な質疑が行われた。

— 質疑応答 —

- Q** こども園の調理業務委託については、プロポーザルの応募が1件。これでは随意契約と同じではないか。
- A** 書面と聞き取りで、研修等の方針提案を受けて決定した。随意契約とは異なる。
- Q** 給食配送業務で事故の場合に保険対象外となった時の対応は。
- A** これから話し合っていく。
- Q** 各地区公民館で「まちづくりセンター」へ移行は。
- A** 今のところはない。
- Q** 成美地区公民館とふなのえこども園はなぜ公共下水道に接続していなかったのか。
- A** 対応が予想されていなかったので行っていなかった。今後は考えていきたい。
- Q** 成美地区公民館のトイレが使用不能だが仮設トイレを。
- A** 運用が難しいが検討したい。
- Q** 35人学級の方針が国から示されたが、どう対応する。
- A** クラスが増えるので教室と教職員の確保が課題。ただし、県の方針で36人学級で補助対象としており、大きく影響はしない。



11月6日(金) 現地調査
成美地区公民館 浄化槽

務省の2020年地方議会シンポジウムで示されたデータ等を参考に、出席議員全員の意見を求めた。最も多かったのは「現状維持」また、1人から2人を「削減」と、「増員」すべきとの意見もあった。理由はそれぞれあったが、議論を重ね、最終的に「現状維持」との結論に至った。

【議員報酬について】

報酬については、中部町村会に報酬審議会が設置されており、本町単独で変更することは困難である。報酬引き上げは、住民の理解が不可欠であり、早々に結論は出せない問題である。

議員定数と同様に「現状維持」と結論付けた。なお、報酬については議長を通じ、中部町村議長会で検討の上、中部町村会に対して報酬審議会の開催を求め、今後の報酬のあり方を検討するよう強く要望して当委員会の報告とする。

議会改革推進 特別委員会

設置 令和2年10月20日～
開催 11月6日
11月26日

審査報告書

令和2年12月定例会 において審査報告

令和2年12月22日

※詳細は本紙8～10ページ
を参照

議員定数・報酬



10月21日 アンケート分析結果報告会

議員のなり手不足解消や議会活動の活発化が、地方自治体の大きな課題である。

琴浦町議会は、これからの議会のあり方を考えるため、「議会改革の推進に関する町民アンケート」を行った。その結果をもとに鳥取大学（地域学部の小野達也教授と工学部の長曾我部まどか助教）にその分析を依頼し、報告を受けた。（令和2年10月）

分析結果の状況も踏まえ、琴浦町議会では、議会改革推進特別委員会を設置し、議員定数と議員報酬の2点に絞り議論を重ねた。

その結果、次のような審査結果報告書のとおり、議員定数・議員報酬は現状維持とした。

令和2年12月22日

琴浦町議会議長 小椋 正和 様

議会改革推進特別委員会
委員長 前田 智章

議会改革推進特別委員会審査結果報告書

当委員会に付託された審査事件について、審査の結果を下記のとおり会議規則第77条の規定により報告します。

記

1. 審査事件 議会改革の推進に係る審査

2. 審査の経過

令和2年10月20日臨時会において、当委員会が設置され、翌10月21日には、昨年度実施した「議会改革に関する町民アンケート」に関しての分析結果の説明を鳥取大学の先生2名から聞いた後、議員懇談会を経て、11月6日と、11月26日の2回、当委員会を開催した。同日、当委員会の方針を決定した。

は現状維持

議会改革推進特別委員会

3. 審査結果の報告

当委員会では、「議会改革推進項目」のうち、①議員定数、②議員報酬の2点に絞って議論することとし、結果、次の理由により、いずれも「現状維持」との結論に至った。

①議員定数について

定数削減の経緯は、平成16年合併時30人から3度の改選を経て14人を削減し、現在の16人となっている。

昨年度実施した町民アンケートの結果は「適当」41.9%、「やや多い」31.4%、「多い」25.3%であった。「多い」と回答された方の中には、本町の議員定数を知らない方もあった。また、議会に関心が無い方の割合が多くあった点は、注目すべきである。

本特別委員会は、町民アンケート分析結果や、県内各自治体の状況及び総務省の2020年地方議会シンポジウムで示されたデータ等を参考に検討し、出席議員全員の意見を求めた。最も多かったのは、「現状維持」。また、1人から2人「削減」と「増員」すべきとの意見もあった。理由は、それぞれあったが、議論を重ね、最終的に「現状維持」との結論に至った。

②報酬について

報酬については、中部の4町で統一されており、報酬審議会で審議された結果を受けて各町で決している。本町独自で変更することは困難である。

また、報酬を引き上げる際は、住民との意見交換会を十分に行い、根拠を丁寧に示しながら、住民の理解を得ることが必要不可欠であり、早々に結論を出すことは出来ない問題である。議員定数と同様に「現状維持」と結論付けた。

4. 委員会の意見

この度は、2点に絞って議論したが、議会改革を推進する上で多くの課題が山積している。

議員のなり手不足、議会への関心の低下、議会運営の在り方やポストコロナを見据えたデジタル化に伴う会議規則等の体制整備等々、議会改革を引き続き推進しなければならないと考える。

当特別委員会は、審査を終了するが、琴浦町の発展のため、議会改革の推進を今後も議員全員で協議検討することとした。

なお、報酬については、議長を通じ中部町村議長会で検討の上、中部町村会に対し報酬審議会の開催を求め、今後の報酬の在り方を検討するよう強く要望して当特別委員会の報告とする。



県内町村議員定数等一覧

市町村議会の議員の定数は、地方自治法第91条第1項に条例で定めることと規定されており、琴浦町では条例で議員定数は16人と定めている。県内でも議員のなり手不足解消等の課題を踏まえ、議会改革が進められているところである。

町村名	条例定数	現議員数	欠員	住民基本台帳人口 (R2.7.1)	議員1人当	次期	改選期	面積 (km ²)	議員報酬 (千円)		
									議長	副議長	議員
岩美町	12	12		11,341	945		R4.7.24	122.32	333	248	227
若桜町	10	9	1	3,100	310		R4.3.8	199.18	333	248	227
智頭町	12	12		6,836	570		R3.7.29	224.70	330	246	229
八頭町	14	14		16,784	1,199		R3.4.23	206.71	313	233	217
三朝町	12	12		6,383	532		R3.11.17	233.52	331	240	224
湯梨浜町	12	12		16,752	1,396		R3.4.29	77.94	331	240	224
琴浦町	16	15	1	17,145	1,072		R4.2.19	139.97	331	240	224
北栄町	15	15		14,809	987	15	R3.10.22	56.94	331	240	224
日吉津村	10	10		3,532	353		R5.4.29	4.20	316	235	221
大山町	16	16		16,045	1,003	16	R3.4.23	189.83	316	235	226
南部町	14	14		10,656	761		R2.10.23	114.03	316	235	221
伯耆町	14	13	1	10,818	773		R3.4.30	139.44	316	235	221
日南町	10	10		4,425	443		R5.4.29	340.96	316	235	221
日野町	10	10		2,996	300		R5.5.19	133.98	316	235	221
江府町	10	10		2,803	280		R3.7.4	124.52	316	235	221

出典：第66回町村議会実態調査集計表（令和2年7月1日現在）及び鳥取県HP（ホームページ）より

2020年11月28日付の「日本海新聞」の県内各議会へのアンケートによれば、同年11月20日現在、議員報酬の引き上げを決定しているのは智頭町議会のみ（令和3年改選後の7月から、現行229千円を280千円に）、検討中が八頭町と日南町の2町。中西部は圏域での審議となる。

ここが聞きたい

一般質問 Q&A

一般質問とは、議員が、町長・教育長・農業委員会会長・選挙管理委員会委員長・監査委員などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来に対する方針などについて問うもの。

本町議会の質問時間は、1人30分以内（答弁時間除く）。

通告1番



澤田 豊秋

- ①2050年温室効果ガス排出ゼロに向けた取り組み
- ②今後の公民館等
- ③JR西日本の駅舎

通告2番



桑本 賢治

- ①熱中小学校の成果と今後の展望
- ②町内の駅舎
- ③駐在所設置

通告3番



高塚 勝

- ①町長の政治姿勢
- ②部落差別

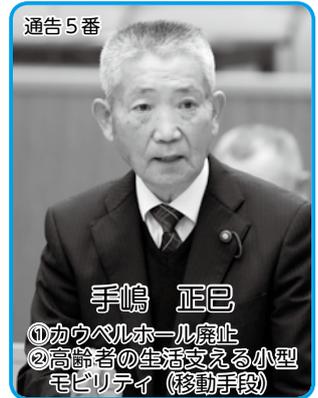
通告4番



青亀 壽宏

- ①「業務改革推進支援事業最終報告書」の利・活用
- ②「第2次観光ビジョン」と「道の駅 活性化計画」

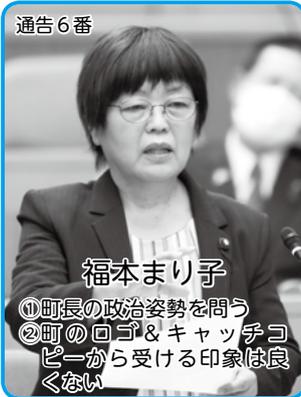
通告5番



手嶋 正巳

- ①カウベルホール廃止
- ②高齢者の生活を支える小型モビリティ（移動手段）

通告6番



福本まり子

- ①町長の政治姿勢を問う
- ②町のロゴ&キャッチコピーから受ける印象は良くない

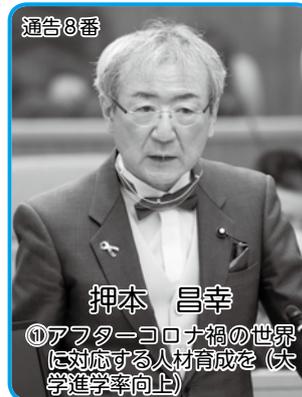
通告7番



角勝 計介

- ①人に優しい町づくり
- ②健康寿命延伸策、動物愛護の観点から

通告8番



押本 昌幸

- ①アフターコロナ禍の世界に対応する人材育成を（大学進学率向上）

通告9番



新藤 登子

- ①産後の母親を守る支援

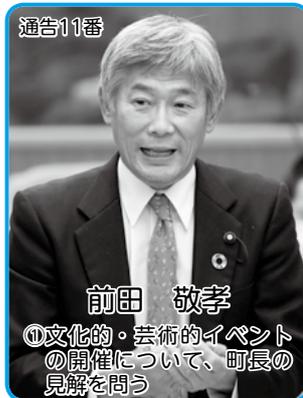
通告10番



井木 裕

- ①政治姿勢

通告11番



前田 敬孝

- ①文化的・芸術的イベントの開催について、町長の見解を問う

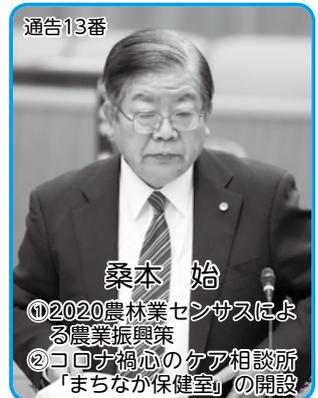
通告12番



大平 高志

- ①町道改良
- ②街路灯の更新補助
- ③再議
- ④町長の政治姿勢

通告13番



桑本 始

- ①2020農林業センサスによる農業振興策
- ②コロナ禍心のケア相談所「まちなが保健室」の開設

※青字は、本紙では省略

一般質問の答弁者に「〇〇課長」とあるのは、地方自治法第121条の規定により、町長及び行政委員会の長ほかから「委任を受けた説明員」として出席した課・局・室長の答弁。





澤田 豊秋 議員

問

温室効果ガス
排出ゼロ宣言を

答

前向きに検討

小松町長

質疑応答時間（10回）
（質問）28分（答弁）38分（トータル）66分

温室効果ガス排出ゼロ

問

本町もまず宣言を

菅首相が初の所信表明演説で、2050年に国内の温室効果ガス排出を実質ゼロにすると宣言された。このことを受け、今後琴浦町としてどう進めていく考えか。

①県は既に一月、温室効果ガス排出の「50年実質ゼロ」を打ち出した。本町も宣言すべきと思うが。
②エネルギーの地産地消が叫ばれている今日、具体的にどう取り組むのか、また、第2次琴浦町環境基本計画の見直しを早期に着手すべきと思うが。

答

前向きに検討

小松町長

宣言することはやぶさかではないが、前向きに検討していかねばならない課題だ。

①町としても、地球温暖化対策の推進に係る法律の基に環境基本計画を策定し進めているが、SDGsの考え方、環境に対する考え方が新たに起こっており、具体的に何ができるか組織改正も含めて見直

しを検討したい。

今後の公民館は

問

人口減少、少子高齢化、荒廃農地、農業後継者不足、防災の問題など、様々な課題が山積し、地域における体制の整備はとも重要です。今後の地域活性化に向けてどのように考えているのか。

①町長はこれからの公民館は、自治センター化という考え方が一つのステップだと言われてきた。どのように具体化していくのか。
②今後の公民館施設ならびに職員体制の整備充実をどのように考えているのか。

答

公民館の在り方検討

小松町長

①自治センターという形ができればと考えており、公民館の在り方を検討するよう、教育委員会にも話している。

答

まちづくりセンター

田中教育長

①地域振興協議会や他団体と連携、統合し、地域課題に積極的に取り組める「まちづくりセンター」（仮

称）を考えている。

②老朽化したものについては、修繕、複合化を進める。職員体制は、必要に応じ配置。一般的には、センター長と職員の2名体制。

問

早く修繕を

成美地区公民館は浄化槽が壊れてトイレが使えない。今後の方向性を示し、早く修繕整備を。

答

今年度公共マスの設置

宮本社会教育課長

今年度本管工事を延長し公共マスを設置。宅内配管を来年度実施するよう調整中。

JRの駅舎はいつなる

問

JR西日本では、今後の人口減少、通勤通学の需要減少や人手不足を背景に、浦安駅、赤碕駅の今後の駅舎のシンプル化が進められているが、今後どのように対応していく考えか。

答

JRの意向を聴きながら
小松町長

問

熱中小学校の成果は

答

生涯の学びを応援する
小松町長



桑本 賢治 議員

質疑応答時間 (8回 (質問) (答弁) (トータル) 13分 + 19分) 32分

最終年度の熱中小学校

問

熱中小学校は地方創生事業の一つとして取り組まれた。今年最終年度に当たりその成果を問う。

答

大人の社会塾

一つの仕事を終えた、あるいは志を持って今仕事をされている方の熱い思いを聞いてよかった。

島根県邑南町職員寺本英仁氏の地域を活性化をしていく中での新たな起業。

船上山のスタンプ印でプラチナ賞優秀賞を受賞したこと。町の玄関にあるキャンピングオフィスとか、内田洋行本社モデルルーム視察に行つてGIGA構想に取り組んだこと。

今のところは行政の話が大半だが、新たな流れが琴浦町に起こっていると思う。



スタンプ (以西郵便局)

問

町民の関心は低い

受講生はだいたい100名で、うち半分は連続している人。最近では法人の受講生が増加している。町民の関心は低いように思うが。

答

情報発信が必要

熱中小学校では、こういう取り組みをやろうという情報発信が必要と思う。

企業について若年の人材育成は必要。全国の一流企業の部長とか志を持って仕事をしている人の話は、新たなヒントになると考える。

駅舎について

問

八橋駅はどうするのか。

答

八橋駅舎は町の持ち物

手前の施設(八橋ふれあいセンター)は町の建物で変化はない。

問

浦安駅はまなびタウンの地下駐車場を活用して、駅まで屋根付き通路にすれば、駅舎はそんな

答

考えてみる

駅の改修がいつになるか分からない部分もあるが、まなびタウンの改修に向けて考えていく。

大きなものは必要ないと思うが。



浦安駅前

駐在所設置

問

徳万駐在所移転新築について、いつ頃どこに建つのか。

答

一畑公園入口の八橋土俵会館跡地に移転

令和3年の県議会の予算が通れば6月頃工事着工予定と聞いている。



高塚 勝 議員

問

部落差別はあるのか

答

差別事象報告はない

田中教育長

質疑応答時間 (34回 (質問) (答弁) (トータル) 26分 + 37分) 63分

部落差別はあるのか

問 琴浦町には、具体的にどのような部落差別があるのか、また、その差別解消に、具体的な施策を行っているか。

答 差別報告はない
田中教育長

昨年度、今年度については、町及び教育現場から部落差別に関する事象の報告は上がっていない。

今年度、意識調査を行っており、調査の結果、部落問題に関する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことがありますがという問いに、20・4%の人があるというふうにご答えている。

文化センターで行っている相談業務においても、住民からの部落差別に関する相談はなくなっていない。表面に出ていなくとも、個人の意識や地域住民の中に潜在的に差別意識が残っているのが現状だというふうにご答えている。

差別解消の施策は、自らの人権が守られているのか、自分の周りで起こっている人権問題に気づき、自分ごととして多くの町民が自覚して行動できるよう、人権・同和教育部落

懇談会や文化センターでの講演会、それから研修会などを継続して行って意識の高揚を図っている。

町長の政治姿勢は

問 ①住民や諸団体の行政要望は、どのような考え方で対応しているか。

②住民、諸団体、議会に対し、どのような考え方で施策の説明責任を担っているか。

③上伊勢地内の道路境界裁判における、その後の取り組みはどのような対応したか。

④成美地区公民館の浄化槽故障に伴い、今後の成美地区公民館のあり方はどのように考えているか。

答 適正に対応している
小松町長

①町に対する「要望」「提言」「意見」などについては、個人・団体にかかわらず、随時受付している。

内容については、法令の規定、予算、緊急度、必要性、費用対効果など各担当部署で総合的に検討し、原則として申し出者に対応状況・対応方針を回答している。

②町行政の推進にあたっては、機会

を設けて説明、傾聴することを重視している。

議会へは、常任委員会および月例報告会にて、事業の進捗状況や今後の予定等を報告している。

③裁判関係者へ謝罪を行い、係争地および隣接地3筆の地図訂正に要した登記費用は全額町が負担した。

その先の土地は、地図訂正の協力を再度依頼したが、現行どおりで良しとされており、訂正するに至っていない。

④成美地区公民館は、地域の拠点であり、トイレの機能回復を考えている。



成美地区公民館

故障した浄化槽

問

①カウベルホール廃止について
②超高齢者社会を見据え小型モビリティ
(移動手段)の普及に力を入れる考えは

答

①全力でやることはやった、廃止はやむを得ないと判断した
②高齢者の自動車の代替手段の一つとして参考にする
小松町長



手嶋 正巳 議員

質疑応答時間 (11回 (質問) (答弁) (トータル) 13分 + 15分) 28分

カウベルホール廃止

問 9月定例会で同僚議員の一般質問で、廃止と答弁された。前日にも議員に説明がなされなかったか。

答 廃止とまでは言っていないが、休館という方向性は示していた。

問 議会軽視にもとれるが

答 議会軽視ではなく議会にどこで説明するのかということ。

問 冷暖房、天井の修理として8億円程度かかると口頭での説明はあったが、設計業者、設計料また見積書の提示は。

答 設計業者は米子の業者で、設計料は約770万円。

問 見積りに長い時間がかかったのはなぜか。

答 修繕に対する補助事業、起債など検討に時間がかかった。

問 修繕費に本当に8億円かかるのか

地元にはA級の建築業者が数社ある。地元の業者に再見積りを依頼する考えはないか。

答 設計業者は設計業者、工事業者は工事業者と分けて考えないといけない。

問 町民の中には、本当に8億円かかるのか疑問に感じている人がいるが、再見積りする考えはないか。

答 専門の建築設計事務所等による根拠のある見積りであり、再度の見積りは考えていない。

高齢者の生活を支える小型モビリティ(移動手段)

問 移動手段だが、自転車や路線バスなどに代わる高齢者の新たな生活の足しとしての、その可能性に期待が高まっていると思う。各種モビリティとして4種類、小型電動モビリティ、電動車いす、電動アシスト自転車、電動キックボードが想定される。

各種モビリティの概要

①特徴	②利点	③価格(代表的な製品)
小型電動モビリティ  ①1~2人乗り ②小型で運転が容易 ③80万~90万円	電動アシスト自転車  ①こぎ出しがスムーズ ②坂道の走行も楽 ③10万円前後	
電動車いす  ①法律上は歩行者扱い ②免許不要、運転容易 ③40万円前後	電動キックボード  ①海外で急速に普及 ②小型軽量、運転容易 ③シェアリングでの利用を想定しており価格未定	

答 いろんな事例はあると思うが積極的に研究していきたい。

問 免許証の返納も増えている、米子市の事例も参考にしたい。

答 走行距離を考えると健康増進につながる話だと思う。

問 2019年度、国の補正予算で電動アシスト自転車の貸出利用の支援が計上されている。

答 自転車の購入や安全講習会の実施など事業に係る費用の3分の2を国が補助、この制度を利用しては。

答 そういうものがあるのは承知している。



福本 まり子 議員

問

- ① 町長の政治姿勢は
- ② 町のロゴ&キャッチコピーの印象は

答

- ① 行財政改革を
- ② ネガティブでなくポジティブに発信
小松町長

質疑応答時間 (9回 (質問) (答弁) (トータル) 30分 + 31分) 61分

何を優先するのか
公共施設の行方は…

問

事業の可視化が重要では。「事業レビュー」や「自分ごと化会議」などは町民の意見を聞く良い機会であるが、時に事業の狙いと審議委員の質問にズレがあり、それが評価に反映してしまふ。事業レビューは今後何項目あるのか。用途は。

答

事業レビューは行財政改革の一環。正職員と非正規職員とのバランス。184ある公共施設の維持や300近くの事業をどうするかだが、事業内容も考えながらも一度やりたい。

問

町民が主役のはずなのに
どうなる公共施設等は

- ①カウベルホール閉鎖後の具体策は。
- ②成美地区公民館のトイレ改修は。
- ③地区公民館と自治センター構想は。
- ④子ども園の統廃合はあるのか。
- ⑤町の業務をどこまで外部委託するのか(東伯総合公園、道の駅等)。
- ⑥分庁舎とまなタンの在り方は。
- ⑦「熱中小学校」の今後の方向性。
- ⑧企業版ふるさと納税の寄付が、なぜ「熱中小学校」に。

答
それぞれ個別に回答

- ①カウベルホールは農協部分もあるので一年以内には方向性を。
- ②成美地区公民館は、前倒しで年度内に下水を接続。
- ③公民館は公民館の活動、自治センターは自治センターの活動。ただ今までどおりでいいのか、続けていくのか、会計年度任用職員で続けるのか。教育委員会で検討。
- ④赤碓地区の子どもの減少を想定して保護者代表と協議中。
- ⑤外部委託は財政効率を考え、人件費圧縮のため。
- ⑥生涯学習センターに、教育委員会がないといけないということは、どうかと思っている。分庁舎は災害の拠点。
- ⑦熱中小学校は、次年度にむけ、都会の人たちとの交流関係人口が構築できるかどうか検討。
- ⑧働きかけたというよりも、問われたら、こういうところ(熱中小学校事業)が今、うちの売り物ですという話をした。

問

危惧するのは、倒産や失業者がでないか、子育てや介護は、ローンは、大学生の中途退学が出ないか、暮らしに影響がでないか。コ

ロナ後の施策は。

答

経済対策を重点に、観光ビジョンに基づいて、食の戦略。扶桑社や集英社の力を借りて情報発信。旅をおして地域を活性化。生活困窮については、アンテナを高く上げて注視。

「くせに」使ってるのが

小さいくせに
ぜんぶある。



惑星
コトウラ

問

町の新ロゴとキャッチコピー、言葉の持つ意味は不満とか非難、軽蔑する時に使うが、男女共同参画や人権施策を推進する上で、どのように思うか。

答

こういう考え方もあるのかと初めて思った。そういうふうには作ったのではない。試食会の際に、小さいくせにという「くせに」が、今いろんな取り方があるが、私は「この味は癖になる」とそういう使い方もあるだろうと思っている。

問 スマート農業
パワーアシストスーツ導入を

答 積極的に研究していく
小松町長



角勝 計介 議員

質疑応答時間 (9回 (質問) (答弁) (トータル)
19分 + 11分) 30分

農業のイメージを
変える

問

スマート農業とは、ロボット技術やICT、AIやIoTなどの先端技術を活用し、超省力化や生産物の品質向上を可能にする新しい農業となる。要するに、現代技術の利点を最大限に活用した、人に優しい農業を実現することである。その技術の一つとして、どうしても機械ではできない。手作業の分野での労力軽減のため、パワーアシストスーツの導入を考えたい。

農業は重労働、家族単位が中心のため、どうしても配偶者に負担がかかる。その積み重ねが、体を痛めることになる。

それでも辛抱を美德とするところがあるのだが、これからの農業は、できるかぎり家族、特にパートナーに負担をかけないスマート農業を目指すべきだと考えるが。

答

新たな取り組み

スマート農業ということで昨年から取り組んでいる。二つの側面があり、一つは数値化して技術を伝承していく、もう一つは労力を低減化し

ていくかにある。そのためにアシストスーツがあると承知している。モデル事業としてできるかどうかも含め検討していく。

問

新規農業者の
呼び水として

スマートとは言い方を変えると格好いい農業、農業に関し先頭を走る町として、先端技術をいち早く導入し、若い農業後継者、都会からの新規就農者にアピールしてはどうか。

答

ポジティブに

アシストスーツ導入により、労力が軽減され品質が向上し、品物が高く売れば、喜びにつながるというアシストを考えている。



↑社製アシストスーツ(農林水産省HPより)

アニマルセラピー
動物愛護の観点から



問

ペットを飼うことで健康寿命が延びることは知られているが、近年多頭飼育崩壊など動物が虐待を受けているケースがある。本町においては猫の不妊・去勢に関して希望者に対し不足している枠を可能な限り広げていくべきだと思うが。

答

検討する

県からの2分の1の補助もあり、町が全額を負担しているわけではないが、予算的な制約もあり、検討していきたい。



押本 昌幸 議員

問

アフターコロナ禍の世界に対応する人材育成を(大学進学率向上)

答

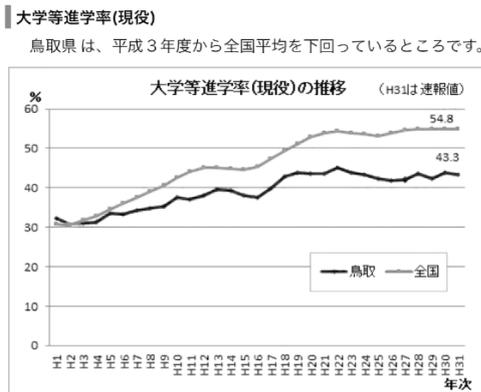
社会的共通資本の一つである教育に対しての投資は責務である
大学卒業後ふるさとに帰ってきてくれるべくキャリア教育を進める

小松町長

田中教育長

(質問) (答弁) (トータル)
質疑応答時間 (9回 30分 + 16分) 46分

答 コロナ禍は、なぜ大学へ行くのか考える機会に 小松町長
コロナ禍で、入学はしたが、リモート授業など、何のために大学に行くのかの意味が問われた。人材育成と



※出典：文部科学省 学校基本調査、ほか

問

ポストコロナ禍、地方分散化とデジタル化にどう対応

ポストコロナ禍でデジタル化が進み、同時に安心安全の地方分散化が可能になる。その時の琴浦町をどう描くのか。
そして、デジタル社会の担い手、人材として大学卒等が必要になってくるが、現在鳥取県の大学進学率は、全国平均と比べ10%近くも低い。原因と対策は。

答

経済的支援とキャリア教育で 田中教育長

大学進学率について、平成元年は鳥取県のほうが高いが、バブル以降差が広がったのは経済的な理由。4年制大学だけの進学率で見ると、差が14・8%にもなる。学力差が全国と開いているわけではない。やはり経済的要因か。
琴浦町はどうかということで、中部だけの数字だが35・7%と県平均に近く郡部としてはそこそこだ。
対策としては、奨学金制度と琴浦町未来人材育成奨学金支援制度という帰郷者の支援制度を始めた。また、義務教育の間に地域のよさ、

いう点で、教育は大事なものの。

生きる意味を考えるキャリア教育を進めている。

任期は四年であっても将来を見据えた施策を

問

今回は、将来にわたる施策を問うた。町会議員、町長とも4年の任期だ。だから四、五年間の施策をすればよいのではなくて、将来を見据えて今の施策を考えねばならないと思う。昨今、定数とか報酬とかガチャガチャあるが、国政の場で、保身と栄達が肝心で、政策や原則ではない。我々町会議員も心して任期を全うしたいと思うが、町長の感想は。

答

教育への投資は責務 小松町長

私が町会議員に対し言う立場にはない。が、今回の話では、教育というのは、故・宇沢弘文さん(米子市出身の世界的経済学者)のいう「社会的共通資本」の一つ。教育、人材育成ということがあって、初めてこの地域、地方が成り立つと思うので、教育に対しての投資は責務だと考えている。

問 産後の母親を守る
支援について

答 早期支援と継続したフォロー
を行っている 小松町長



新藤 登子 議員

質疑応答時間（10回） (質問) (答弁) (トータル)
20分 + 15分） 35分

心の問題として
母親を救うための支援

問 コロナ禍の中で孤独と不安に
駆られ、何をしても不安の
日々が続くのが「産後うつ」である。
抑うつ状態の発見が遅れ、症状が深
刻になるほど回復に時間がかかる。
どのような支援が考えられるか。

答 産前・産後を含めてサポートの体
制を取っている。小松町長
各種取り組みで、産後ケア事業・
ヘルパー・一時保育・ファミリーサ
ポートの体制、この「産後うつ」の
ことについて相談窓口は、引き続き
行っていきたいと思っている。

問 子育て支援のボランティアの
育成は考えられるか

身近なつながり、子育て支援のボ
ランティア、最も身近な父親のサ
ポート、父親同士の交流は大事。近
所の人・家族・親戚のつながりも大
事であるので、ボランティアの育成
はどうか。

答 家族以外の周りの対応
が重要 小松町長
家庭環境が変わってきた。男性が

どこまでフォローできるか確かに問
題はあると思う。子育ての父親もそ
ういう認識になるようなことはある
と思う。現状を課長に答えさせる。

答 保健師が個別に訪問する支援を行っ
ている。財質子育て応援課長
産前には保健師が訪問。産後ケア
事業、いろいろサービス事業もやっ
ている。必要であれば早急に訪問。
同じ妊産婦同士での交流を深めてい
きたい。

問 「産後うつ」を防ぐために
どのように守っていくのか

母親を孤立させないことは極めて
重要。
コロナ禍では保健師・助産師・専
門職からのサポートが行き届きにく
くなっているのが実態のようであ
る。「産後うつ」を防ぐための考えは。

答 交流事業を行っている 小松町長
やはり心のケア、人と人との話し
合い。人の顔を見ながら交流事業を
行っているところである。

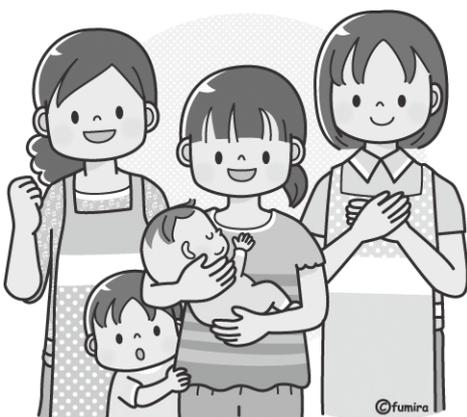
答 産前から妊婦との関わりを持っ
ている。財質子育て応援課長
基本的には産前・産後含めて数回

会う。訪問など行った時は、悩みや
相談を受ける形を取っている。また
「コロナの影響で何か困っているこ
とはないか」と尋ねるようにしてい
る。

問 産後ケア事業として
何か良い考えを伺う

休息を必要とする全ての母親たち
が利用しやすいような手厚い助成が
必要と思うが。

答 産後育児ケア事業は今年度で3年度
目の実施 財質子育て応援課長
心身ともに不安定になりやすい産
後の時期を、母子が一緒に医療機関
などに宿泊や日帰りなど、心身のケ
ア、育児のサポートをしていくこと
である。





井木 裕 議員

問 物産館をどのように考えているか

答 統一性を持たせた方向で小松町長

質疑応答時間（ 7回 30分 + 21分 ） 51分
 (質問) (答弁) (トータル)

赤碕駅無人化

問 赤碕駅が来年3月をもって無人化にするという方向性はJR西日本から聞いている。どのように町長として対応したのか。

答 現在無人化にはなっていない。昨年7月にJRから駅舎をどうするかという話があった。建て替えだったらJRはお金を出せないという話で、よく話をしながら考えていかなくはないけない問題だ。

物産館

問 物産館(道)の駅 琴の浦(内)は建設して10年近くなる。建てる際には、何としても漁協を入れないと町の物産館自体がダメになるという状況だった。

物産館を町長はどのように考えているのか。



答 現在の契約は10年が一つの区切りとなっている。「物産館内の統一性を持たせていくような方向でやりましょう」ということで理解を得たと思っている。

ふなのえこども園とこども園の一本化

問 ことうらこども園と、ふなのえこども園が一本化されると聞くが、どのように考えているのか。

答 ふなのえこども園の建て替えることがあり、事前に協議している。子どもの数が少なくなっている中で、一本化していく方向もあるという話をしている。

成美地区公民館のトイレの修理は

問 公共下水が計画されたとき、町の建物は公共下水に継ぐという考えだったと思う。そこで、成美地区公民館のトイレを直さないといいふうに聞くが、速やかに公共下水による復旧をすべきではないか。

答 来年に向けて改修をしている。今年度は公共下水に継ぐ工事にかかりたい。

カウベルホール

問 カウベルホールは農家の人を守らなければいけないということで、農協から行政が買った経緯がある。今後どのように考えているか。

答 当時のことは詳細には知らないが、廃止する方向で考えている。

職員の体制

問 役場職員の研修・指導は誰がしているのか。一般職の職員を技術者としてなせ育てないのか。トップを中心とした体制づくりを提案する。

答 技術職は採用している。研修はしている。年度当初や四半期ごと、さらにHPのコラムに毎月一回メッセージを送っている。

問 コロナと共生する
文化・芸術の振興を

答 文化振興のあるべき姿
を模索する 小松町長



前田 敬孝 議員

質疑応答時間 (3回 (質問) (答弁) (トータル)
14分 + 11分) 25分

アフターコロナではなく
ウィズコロナの考えで

問

今年はコロナ禍により、大きなイベントだけでなく地区の祭りや催し物がことごとく中止となり、地域の絆が築きにくかった。コロナ後ではなく、コロナと共生しながらどのように文化芸術活動を推進していくのか。

答

文化支援を検討する

小松町長

コロナはこのまま収束しないと
思っている。町民憲章に「歴史と文
化の薫るまち」とある。我が町の文
化振興のあるべき姿を、教育委員会
と相談しながらすすめていく。

答

心を豊かにする文化芸術

田中教育長

文化芸術には多くの効果があり、
町民の生活を豊かにする、町を活性
化するというような働きもある。大き
な企画は他の市町村と連携しながら、
多くの町民が質の高い文化芸術を楽
しめる機会を増やすよう努力する。

「歴史と文化の薫るまち」には
自然と人が集まってくる

問

琴浦町民憲章にある「文化の
薫りが高いまち」というのは、
自然と人が集まり、活気がみなぎる
元気な町ということだと思ふ。感受
性の高い世代にとってこの一年、質
の高い音楽や文化芸術に触れられな
かったということは非常に悔やむべ
きことだと思う。NHKの朝ドラ
「エール」のように歌は神秘的な力
を持つ。

答

子どもの情操教育

小松町長

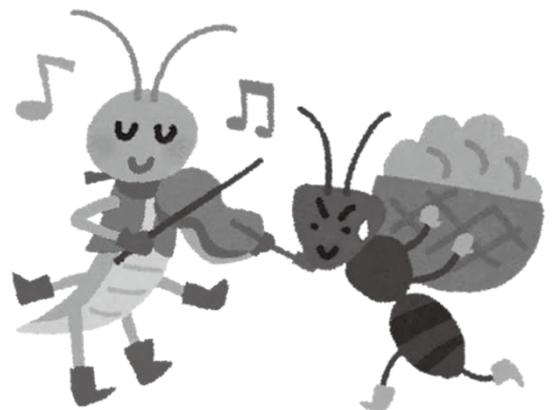
本物を見ることがひとつのきっか
けになることもある。

答

いろんな機会を与える

田中教育長

来年度はいろんな企画がある。子
どもたちが本当の芸術に触れる機会
を増やしていきたいと思っている。



コロナ禍にあっても芸術によって変わる価値観

キリギリスさんは一生懸命練習して
バイオリンをマスターしたのです。ア
リさんは知らないうちにキリギリスさ
んの音楽に癒され、優しい気持ちを持
つようになっていました。やがて冬に
なり、食べ物をもらいに来たキリギリ
スさんをアリさんは優しく迎え入れ、
キリギリスさんは素敵な音楽をプレ
ゼントしました。

カウベルホールで「第九」の
合唱を思っていたのだが……

問

「カウベルホール」には多く
の人の思いが詰まっている。
桜の咲く頃にカウベルホールの中庭
で季節外れの「合唱」の実現を要望
して終わる。



大平 高志 議員

問

町道の整備を早急に

答

様子を見ている

小松町長

質疑応答時間 (35回 (質問) (答弁) (トータル) 26分 + 27分) 53分

町道の改良は

問

町道小学校松ケ谷・荒神谷線から国道9号線に接する部分は視界も悪く道路拡幅が必要と一般質問で取り上げたことがあるが、現在の状況は。また、海蔵寺坂は狭小で車がすれ違うのにも苦労する道で、早急な整備が必要と思うが。

答

その部分は国による用地取得が完了したので、令和3年度内に事業着手、完了予定。赤碓海蔵寺線は子どもの安全確保で考える必要があるが、費用もあり交通量も勘案しながら様子を見ている。

問

小学校まで改良を

①小学校松ケ谷・荒神谷線だが、将来的に小学校まで改良する計画を前町長は言われていた。スピード感を持って取り組んでほしい。
②海蔵寺坂は車のすれ違いも難しいようで、寺の駐車場に入ってよけたという話も聞く。床板をかけたることができることはやられてきたと思うが、むき出しの水路を管で埋めて道にしたり、抜本的な対応をしてほしいが。

③改良するとすれば幾らかかるか概算でも見積りしているか。
④アンテナを高くして乗つかれる補助があればぜひ実施してほしい。

答

修理をしていきたい

長尾建設環境課長

①事業の完成を見ながら修理をしていきたい。具体的には蓋がけ側溝の改修、カラー舗装を計画し、通路の安全対策をとろうと思っ

答

災害時を考えて

小松町長

②私が小学生のころは台風が来たりすると水があふれる状況だった。災害時を考えての検討になる。

答

約1億5千万円

長尾建設環境課長

③防火水槽の蓋がけ、県道大栄赤碓線部分の水路断面の費用で約1億5千万円かかると見積もっている。

答

状況をみて

小松町長

④今後の状況をみて検討したい。

街灯更新の補助を

問

改修補助を

街路灯のLED化事業は平成29年度が最終。故障等で点灯しないが、地区内の街灯は各集落の管理となっている。故障時の改修補助を行い、安心安全な町づくりを進めるべきでは。

答

約束ごとで

小松町長

自治会の管理1200基が現在ある。耐用年数は15年、適正な交換時期は8年から10年であるが、改修は地元で行うという当初の約束ごとだ。

問

違うと思う

人口も減り、自治会のマンパワーも落ちている。約束ごとだとゼロ回答だが、規模や財政基盤が自治会によってまちまちなので違うと思うが。

答

検討したい

小松町長

財政負担を伴うので、そこを考えた上で対応ができるか検討したい。

問

2020年農林業センサス
(地域の農業就業人口を予測
必要な新規就農の目標算出)

答

農業就業人口から地域
構想を考える 小松町長



桑本 始 議員

質疑応答時間 (9回 (質問) (答弁) (トータル)
30分 + 22分) 52分

中山間地の農業振興策

問 多様な担い手の確保急げ

① 農業の現状と将来予測について。

② 人口予測からの地域農業構想(提言)

a. 「半農半X」についての所見は。

b. 中山間地農業支援のため、新規就農者数の算出を行ったうえで、将来の農業の姿や農業以外で所得を確保する機会などを住民らで協議し、地区の活性化プランを作成し地域農業就業人口2045年を予測する。そして農業就業人口を長期的に安定させるため、20代前半男女・30代前半男女・60代前半男女の就業を確保するという考えはどうか。

③ 令和3年度事業計画の中山間地農業については、関係各局による地域推進チームで営農計画を策定し、古布庄・上郷・以西・安田の各地区に出向き、農政懇談会を開催してはどうか。

答 就農人口予測プログラムで持続可能な農村づくりを

④ 琴浦町農政懇談会を設立しては。

① 町の数字は来年になる。後継者問題に対しては、スマート農業に取り組んでいる。我が町の農業産出額が100億円あるというのも地域産業のひとつのベースだと思う。

② a. 農林水産省が次期対策ということで取り組むようだ。藤山先生の知見も借りながら琴浦の農業の発展を考えていきたい。

b. 地区に出かけての座談会については、話のたたき台として、農業版の人口分析(中山間地域農業就業人口の予測と必要な新規就農の目標算出)資料を藤山先生に算出していただく。

③ 農業版の人口分析資料を基に、J Aも含めた座談会を検討したい。

④ 人が集まって意見交換したりするのは非常に大事なことだと思っており、ぜひ考えていきたい。

コロナ禍の中
「まちなか保健室」を

問 ワンストップ総合相談窓口を「まなタン」に

コロナ禍の中、解雇・雇止め、また、いじめ・不登校・児童虐待・DV・ひきこもり・ヤングケアラー・自死等、心のケアの取り組みについて複合的な悩みを聞く「まちなか保健室」の開設を提案する(行政の相談窓口はハードルが高い)。

答 まなタンに「まちなか保健室」設置は来年には困難

令和2年4月より、他機関の協働による包括支援体制構築事業ということで、ひきこもり対策として、福祉あんしん課を窓口、自立相談支援窓口、多機能包括相談支援窓口と同じ場所に相談員・推進員を設置し対応している。

また「まちなか保健室」を「まなびタウンとうはく」というのは、リニユールが進んでいて今月末に中間的な話を聞くことになっており、スタッフが別行動として部屋をつくる話になれば、来年というわけにはならない。

町民の声

敬称略

琴浦の梨をご愛顧いただき感謝

琴浦梨生産部は毎年7月下旬から12月中旬まで全18品種を扱っており、我が家では1.3haで12品種を家族4人で栽培しています。以前は夏の気温が30度を超えることはほとんどありませんでしたが、今では35度が当たり前になってきました。地球温暖化により、これまで経験したことのない気象条件や鳥獣害も増え、梨栽培も日々苦勞の連続です。幸い、町より果樹共済の掛け金の一部助成があり感謝しております。



藤井 憲人

ジョイント栽培をバックに

平成元年には旧東伯で500戸以上の生産者がいましたが、所得が上がらない、高齢化、病気、けがなどで今では琴浦町全体で140戸と生産者が激減しましたが、近年では価格も上がったためか、梨栽培をしてみようという人もあります。しかしやめる人の方が多いため、梨産地としての維持が難しくなっています。

今後は取引市場を縮小しながらも産地を維持し、消費者の皆さまに「安心・安全でおいしい琴浦の梨」をお届けしていきますので、よろしく願いいたします。

私ごとではありますが、このたび剣道六段に昇段することができました。これもひとえに剣道教士八段の阿部正美先生（徳万出身・鳥取県警）をはじめとし、子どものころからご指導を賜った歴代の先生方、いつも元気をもらっているスポーツ少年団の子どもたちのおかげです。ありがとうございます。毎週月、水、金曜日には総合体育館武道室で「剣道の理念」を基に稽古していますので、興味のある方は見学に来てください。

大好きな地域に恩返し

私たち夫婦が、結婚を機にガーデンヒルズ立石台に移住して、もうすぐ13年になります。慣れない土地で当初は不安も多くありましたが、地域の方々に暖かく迎えていただき、すぐに馴染むことができました。今ではこれからも住み続けていきたいと心から思える、大好きな町です。そして、町への愛着が増していくにつれ、専門職として培ってきた経験を地域貢献に活かせる働き方がしたいとの思いが強くなり、令和2年7月にガーデンヒルズの自宅1階を改修して、『地域密着型通所介護 あすぶらす ことうら』を開業しました。「苦手な方も行ってみたいくなるデイサービス」をコンセプトに、自宅を改修した馴染みやすい空間、小規模ならではの細やかなサービス、専門性を活かしたりハビリを特徴としています。わからないことばかりで手探りの毎日ですが、地域貢献できる喜びを噛みしめながら充実した毎日を過ごせています。ひとりでも多くの町民の笑顔を増やしていけるよう、これからも楽しみながら頑張っていきたいと思えます。



よこがわ 正憲



あとがき

昨年2月、日本で初めてとなる、「スマホ持込みOK入試」が、東京の私立中学で実施された。求められるのは単なる知識量ではなく、ネット上から有益な情報を収集・選別し、最適な結果を導く能力で、より多くの情報を得るためには、外国語の知識も必要だ。

コロナ禍の正の副産物とでもいうのか、町内の小中学校へのタブレット端末の配備が一気に充足した。「誰一人取り残さないデジタル社会」への第一歩ではあるが、目指すのはあくまでも人間中心の社会、「人にやさしいデジタル化」である。

一方、今年2月からは「高年齢者雇用安定法」が施行される。人生百年時代を迎え、生涯学習も変わり、学校卒業後も継続して学び、常に新しいスキルを身につけなければ、安泰な老後生活もままならない時代になってくる。(ひろのり)

議会広報常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 角勝 計介 |
| 副委員長 | 押本 昌幸 |
| 委員 | 高塚 勝 |
| 委員 | 澤田 豊秋 |
| 委員 | 福本まり子 |
| 委員 | 前田 敬孝 |

表紙写真

撮影地 東伯総合公園どんぐり広場
(提供/東伯総合体育館)